

# 令和6年度第1回 工賃向上研修会

## 事例紹介（福祉事業所①）

畑楽屋

管理者 千葉修 様

# 1 事業所紹介

事業所名・所在地	畑楽屋・つくば市島名2191（諏訪C14街区8）
設置者名	カルチベイジ合同会社
R6利用者数（定員数）	20名
これまでの 工賃月額実績	R3年度：20,576円 R4年度：26,094円 R5年度：35,091円

## 主な作業内容・作業環境 等

種類	内容	作業場所	作業場所に発注元の 従業員等がいるか
農福連携	農作業 販売	終日施設外	いる
花壇等の管理	花苗植え 日常管理	一部施設外	いない (お客様などはいる)
軽作業	シール貼り 部品組立	施設内	いない

## 2 農福連携に取り組みはじめたきっかけ

### はじめたきっかけ

人手に困っている農業者がいる  
仕事や活動の機会を得られなくて困っている障害者がいる  
この両者を結びつけよう

### つないだ責任

「命賭けてっから」という農業者の言葉  
いきいきとした表情、自分のやるべき仕事という障害者  
お互いに、なくてはならない存在となれるようやらなくてはいけない

### 今の思い

障害者からは「なくなっては困る」  
農業者からは「来てもらわなくては困る」  
そこにニーズがある限り、続ける

# 3 - 1 作業内容① (例: タマネギ)

① 苗取り⇒② 定植(機械)⇒③ 株元の草取り⇒  
④ マルチはがし⇒⑤ 収穫(機械)



# 3-2 作業内容① (例: タマネギ)

⑥運搬(機械)⇒⑦調整選別(機械)⇒⑧ネット入れ



## 3-3 その他の品目

その他の品目（作業経験のある品目）

- ◎...ニンジン、サツマイモ、ジャガイモ、トウモロコシ
- △...ベビーリーフ、ダイコン、レタス、カブ



農作業をする日のスケジュール

（夏シフト期間を除く）

時間	内容等	備考
8:30	事業所朝礼、出発	事業所の車
9:00	農園朝礼、作業開始	手袋、靴など
10:15	休憩	農業者と一緒に
10:30	作業再開	
12:00	昼休み	弁当は現地に配達
13:00	作業再開	
14:00	休憩	
14:15	作業再開	
15:00	農園終礼、作業終了	
15:30	帰所、事業所終礼	事業所の車

# 3-4 工夫点など

## 工夫していること

### 障害者にむけて

できるだけわかりやすく  
個々のできることをよく知る  
全体として柔軟に組み合わせる

### 農業者にむけて

中途半端で終わらせない  
できないことを障害者のせいにならない  
農業者がご自分の業務ができるよう

## 気を付けていること・たいへんなこと

### 障害者との関係性

いつも強い立場の人  
指示指導をする人

自分のことをわかってくれる人  
そばにいて一緒にやる人

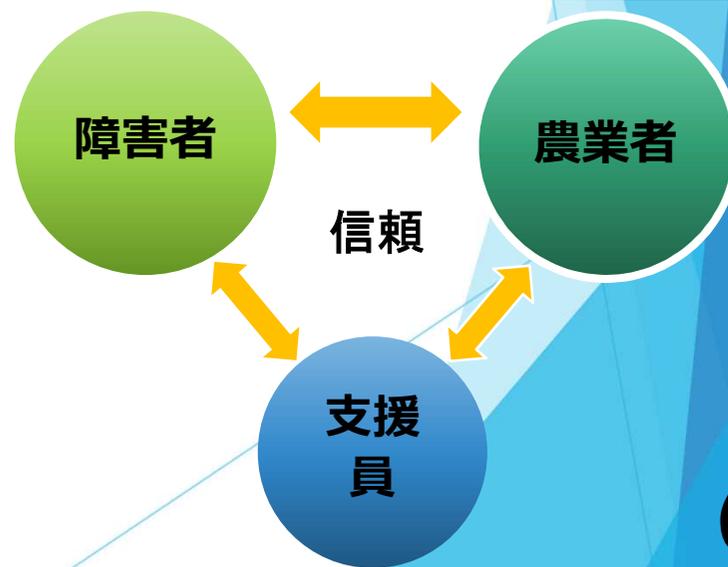
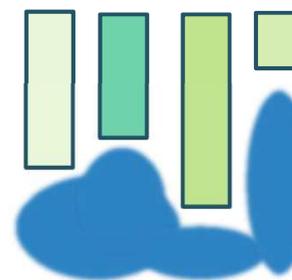
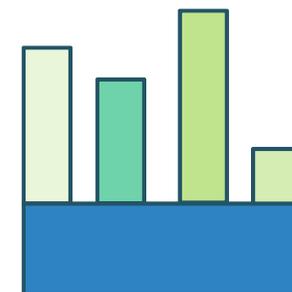
### 農業者との関係性

来てもらっている  
福祉事業所の支援員

うちの仕事をわかってる人  
任せたい人

固定化の支援

柔軟な  
支援



## 4 取組の効果

### 障害者の変化

Aさん 「ここが自分の居場所。ずっといたい」

Bさん 強みの発見 ⇒ 体力がある。作業にこつこつ取り組める。



### 工賃について

受注元から信頼され認められる = 受注代金はあがる

↓  
農業者や企業の信頼をどうやって得ていくのか  
どうすると仕事をしたいと思ってもらえるか

就労系スタッフとして腕の見せ所のひとつ

目先の単価アップだけを目指さない  
息の長い取引のほうがいい（お互いに良い取引）  
地域（環境）にどうはたらきかけていくかという視点

畑楽屋 工賃明細書	
氏名	様
期間	令和6年 月分
時給	200 円
勤怠	出勤日数 23 日 実働時間 110.25 時間
支給	基本給 22,050 円 農園手当 円 役割手当 円 特別手当 円
工賃支給額	103,000 円
控除	昼食 4,200 円 調整分 0 円 利用料 円
差引支給額	99,000 円

畑楽屋

## 5 今後の取組

### 農福連携の未来

#### 障害者

障害者人口は増。実際のニーズもある。環境に合う方もいる。

#### 農業者

農業者は減。増える耕作放棄地。人手不足でニーズはある。

#### 支援員

障害者と地域の双方にかかわりたい人。探すのが一番難しい。

### ゆっくりと関係を育んでいく

障害者も農業者も支援員もマッチング。好きじゃないのにやっても仕方ない。

ちゃんと好きな人が集まって、得意なことをいかして、楽しみながらやる。

だから時間はかかってもいい。むしろ時間をかけて丁寧に関係を育んでいく。

## 6 参加者へのメッセージ

農福連携は、障害者（人）と農業者（環境）の双方にはたらきかけることができるソーシャルワーク

# だから、おもしろい

ご清聴ありがとうございました

